

## 改訂版 倫理的悩みの尺度 看護師版の開発

著者	中村 智美
発行年	2018-03-09
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/00012390">http://hdl.handle.net/10422/00012390</a>

氏 名	中村 智美
学 位 の 種 類	修士 (看護学)
学 位 記 番 号	修士第 2 2 4 号
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 3 条第 1 項
学 位 授 与 年 月 日	平成 3 0 年 3 月 9 日
学 位 論 文 題 目	改訂版 倫理的悩みの尺度 —看護師版の開発
審 査 委 員	主査 教授 喜多 伸幸 副査 教授 伊藤 美樹子 副査 准教授 中西 京子

## 論文内容要旨

※整理番号	229	(ふりがな) 氏名	なかむら 中村	ともみ 智美
修士論文題目	改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版の開発			
<p>【研究の目的】看護師における倫理的悩みの尺度 (Nurse Questionnaire (ADULT) scale) を日本語に翻訳し、『改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版』の信頼性と妥当性を明らかにする。</p> <p>【研究方法】横断的デザインによる量的研究. 日本語版に作成した改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版を用いて被験者に、自記式質問紙調査票を実施する。①MDS-R 日本語版の翻訳と使用許諾②改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版の作成 (MDS-R Nurse Questionnaire (ADULT) scale の翻訳と逆翻訳) ③尺度についての検討会 ④滋賀県下及び岐阜県下、病床数 340 床以上の医療機関で勤務する看護師 500 名を対象に本調査を実施する。⑤データの収集 ⑥データの分析</p> <p>【結果】同意の得られた 6 施設に 846 部の調査票を配布した。そのうち、443 部の調査票を回収した (回収率 52.4%)。各設問の無効回答率 20% 以上を除いた調査票を有効回答とし、有効回答数は 407 部であった (有効回答率 48.1%) だった。改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版の内的整合性を検証するため Cronbach の <math>\alpha</math> 係数を算出した。Frequency と Level of Disturbance の点数を乗算した得点において、全体では <math>\alpha = 0.89</math> であった。改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版の構成概念妥当性を検証するために因子分析を行った。因子分析は、最尤法、プロマックス回転を行い 4 因子が抽出され共通性 0.16 以下になる項目は認めなかった。因子負荷量は、0.40 以上になった項目を確認した。また、看護師の倫理的悩みにおける属性別の得点比較では、年齢と経験年齢に有意な関係が見られ、看護師の倫理的悩みに及ぼす要因では、年齢が看護師の倫理的悩みに影響を及ぼしていたことが明らかになった。</p> <p>【考察】本研究は、成人、小児、救急、集中治療室など幅広い領域で働く看護師 (n=407) が対象であり、倫理的悩みを測定する尺度 (改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版) の開発として選択した。Hamric らの先行研究では、医師や救急、成人、小児科、精神科、集中治療室で働く看護師 n=395 (回答率 28%)、医師 n=111 (回答率 13%)、他職種 (n=86) を対象に倫理的悩みとの要因について報告している。このように、今回の調査対象は看護師の倫理的悩みの尺度開発に適しており、本研究で作成した改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版は、安定性と内的整合性による信頼性と構成概念妥当性が確認された。また、改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版の頻度と程度の点数を乗算した総合得点における <math>\alpha</math> 係数は 0.8 以上を認め、項目間の相関係数では 0.7 以上安定性および内的整合性による信頼性は保たれていると考えられる。</p> <p>【総括】今回、開発した改訂版 倫理的悩みの尺度—看護師版は、日本の看護師の倫理的悩みを測定するものであり、信頼性と妥当性が検証された尺度である。この尺度を臨床現場で活用することで、今後、日本の看護師の倫理的悩みを評価することができ、また、倫理教育の一助に繋がると考える。</p>				